

川の事故から子どもを守るために！

★ポイント★



- 川へは、子どもだけでは遊びに行かせない。
- 立入禁止の川へは、近づかせない。
- 遊泳禁止の川では、絶対に泳がせない。
- 家族で川に出かけたときには、次の点に気をつけてください。
 - ・必ず天気や川の情報をチェックし、急な増水に注意する。
 - ・大雨や豪雨で増水した川へは近づかない。
 - ・川で遊ぶ場合は、ライフジャケットなどの活動に合った準備をする。
 - ・遊んでいる子どもから目を離さない。
- もしも事故が起きたときは、近くの人にすぐに助けを求めるように教えてください。
- 子どもが川に入って遊んでいた、泳いでいたりするなど、危険を感じたときには「危ない」と声をかけてください。

一宮市の北から西を流れる大きな川「木曽川」も、身近に流れる小さな川や用水も、子どもたちにとってはとても魅力的な場所です。

しかし、大きな川「木曽川」にも、身近に流れる小さな川や用水にも、たくさんの危険が潜んでいます。

子どもたちは、自然の怖さ、恐ろしさを知りません。

川での事故は、命にかかわります。

上のポイントや裏面の資料を参考に、お子さんへの注意や約束づくりをお願いします。



私たち大人の力で、



子どもたちの大切な命を守りましょう！

「危ない」「だめ」だけでなく、 川の危険・子どもの気持ちを踏まえることが大切です。



川には、こんな危険がいっぱいあります。

- ①②：上流の雨で増水。急な濁りや枝の流れに注意します。
③：草で見通しが悪く、滑って川へ落ちます。
④：速い流れ、川底の石や石に留まった障害物があります。
⑤：浮き石でバランスを崩して転倒。流されると立てません。
⑥⑦：底が深くえぐれています。流れが複雑で渦もあり、水中に引き込まれると浮いてこられません。
⑧⑨：中州は急な増水で水につかり、戻れなくなります。
⑩⑪：流水は一定しません。**川の事故の90%がここで発生。**
⑫⑬⑮：複雑な流れがあります。
⑭：流れはゆっくりに見えますが、すぐに本流に戻されてしまいます。
⑯：河原には、マムシやスズメバチがいます。
⑰：川の合流地点。2つの流れで複雑な波や流れが起きています。
⑱⑲⑳：流れが直線的。抜け出すことが困難です。
㉑：ぬれた石やコンクリート護岸の上は、こけが生えて、ぬれて滑りやすくなっています。

川は、子どもたちにとってこんな場所です。

【川は、子どもたちが遊びたくなる魅力いっぱいの場所です】

- ・きれいな流れを見ると、川に入って水遊びをしたり、泳ぎたくなります。
- ・魚やエビ・カニ、虫などの生き物がいっぱいいて、捕まえたくくなります。

【子どもたちにとって川は、こんな風に見える場所です】

- ・川幅が広い大きな川は、危険が見えなくなってしまいます。
川幅が400mもある川いっぱい水が流れていれば、子どもは近づきません。しかし、水が川幅の4分の1程しかないときには、向こう岸まで渡れそうな気持ちになるなど危険が薄らいでしまいます。
- ・子どもの身長・目線では、先の危険が見えません。
背が低く、目線が水面に近い子どもたちは、流れや深さの変化がわかりません。
- ・川の魅力に子どもたちの冒険心が膨らみます。
「もう少し流れの早いところ、もう少し深いところへ」「流れがないとスリルがない」「いざとなれば泳げばいい」



◎水辺の安全ハンドブック

財団法人 河川財団

<http://www.kasen.or.jp/>

◎安全に川遊びをするために

「ストップ！河川水難事故」国土交通省河川局

http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/play/stop_suinan_leaflet.html

を参照してください。